参考資料　2

26年産米の最近の契約・販売動向について

○　生産量は前年に比べ30万㌧減少したが、出荷業者の契約数量及び販売数量は、前年を大幅に上回っており、直近においても堅調に推移。

1　生産量（主食用米）

25年産　818万㌧

26年産　788万㌧　前年比 ▲30万㌧

2　出荷業者の契約数量（生産年７月～翌年６月）

25年産　209万㌧

26年産　239万㌧　前年比 ＋30万㌧

注１：「米に関するマンスリーレポート」の相対取引数量である。
注２：対象は、年間販売量が5,000㌧以上の出荷業者、うるち米のみ、主要114産地品種銘柄、１等米のみである。

3　出荷業者の販売数量（生産年７月～翌年６月）

	7～12月	1月～3月	4月～6月	
25年産	63万㌧	84万㌧	89万㌧	235万㌧
26年産	70万㌧	86万㌧	97万㌧	253万㌧　前年比 ＋18万㌧

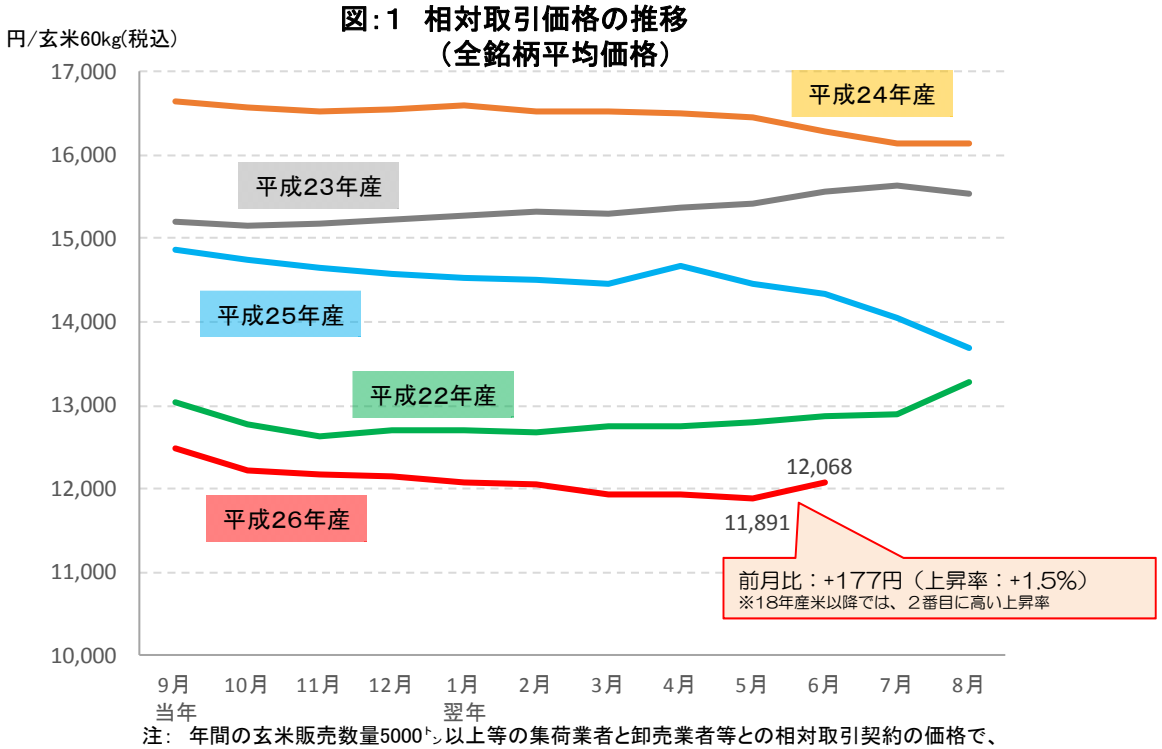
注１：「米穀の取引に関する報告徴収」の在庫調査から試算。
注２：対象は、年間玄米仕入量が500㌧以上の出荷業者、うるち米及びもち米である。

26年産米の価格動向について

○　相対取引価格（全銘柄平均価格）の26年産６月分は対前月比+177円（+1.5%）となり、単月の価格上昇率でみれば、平成18年産以降では２番目に高い上昇率。

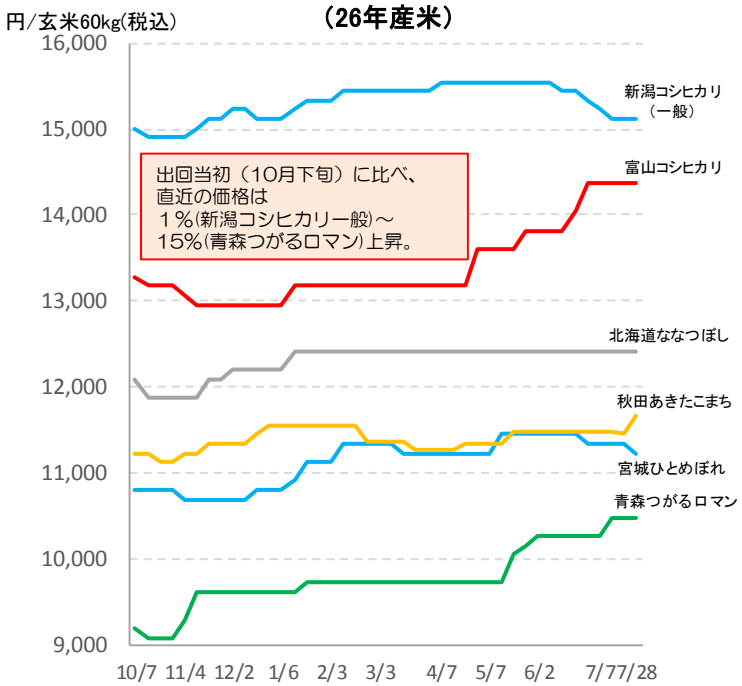
○　この他、スポット価格は、多くの銘柄において出回当初（10月下旬）より上昇し、米取引関係者の判断（DI）（向こう３ヶ月の米価水準）も過去２年で最も高い数字。

図：1　相対取引価格の推移（全銘柄平均価格）



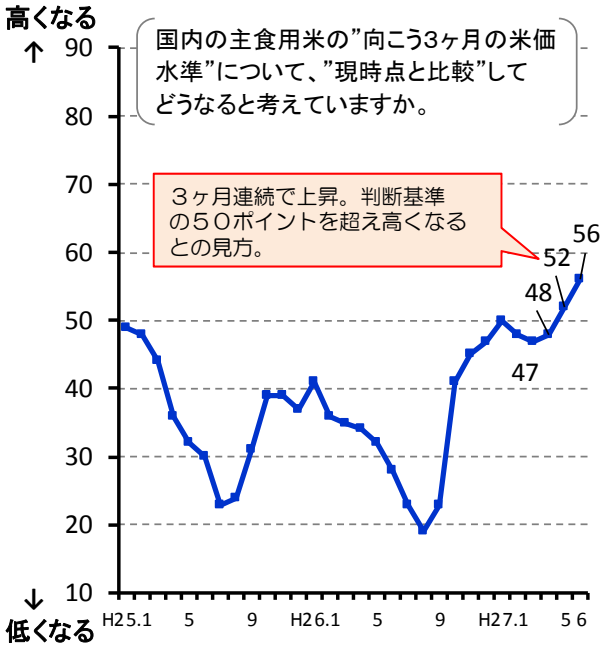
注：　年間の玄米販売数量5000ﾄﾝ以上等の集荷業者と卸売業者等との相対取引契約の価格で、運賃・包装代・消費税を含む1等米のもの。

図：2　スポット価格の推移（26年産米）



出典：　米穀市況速報　※ 原則火曜日公表

図：3　米取引関係者の判断（DI）



注：米穀機構が毎月アンケート調査を実施し公表している調査結果であり平成27年6月分として7月9日に公表されたもの。